

令和3年6月定期総会 議事に関する説明

特定非営利活動法人 産学連携学会
会長 木村雅和



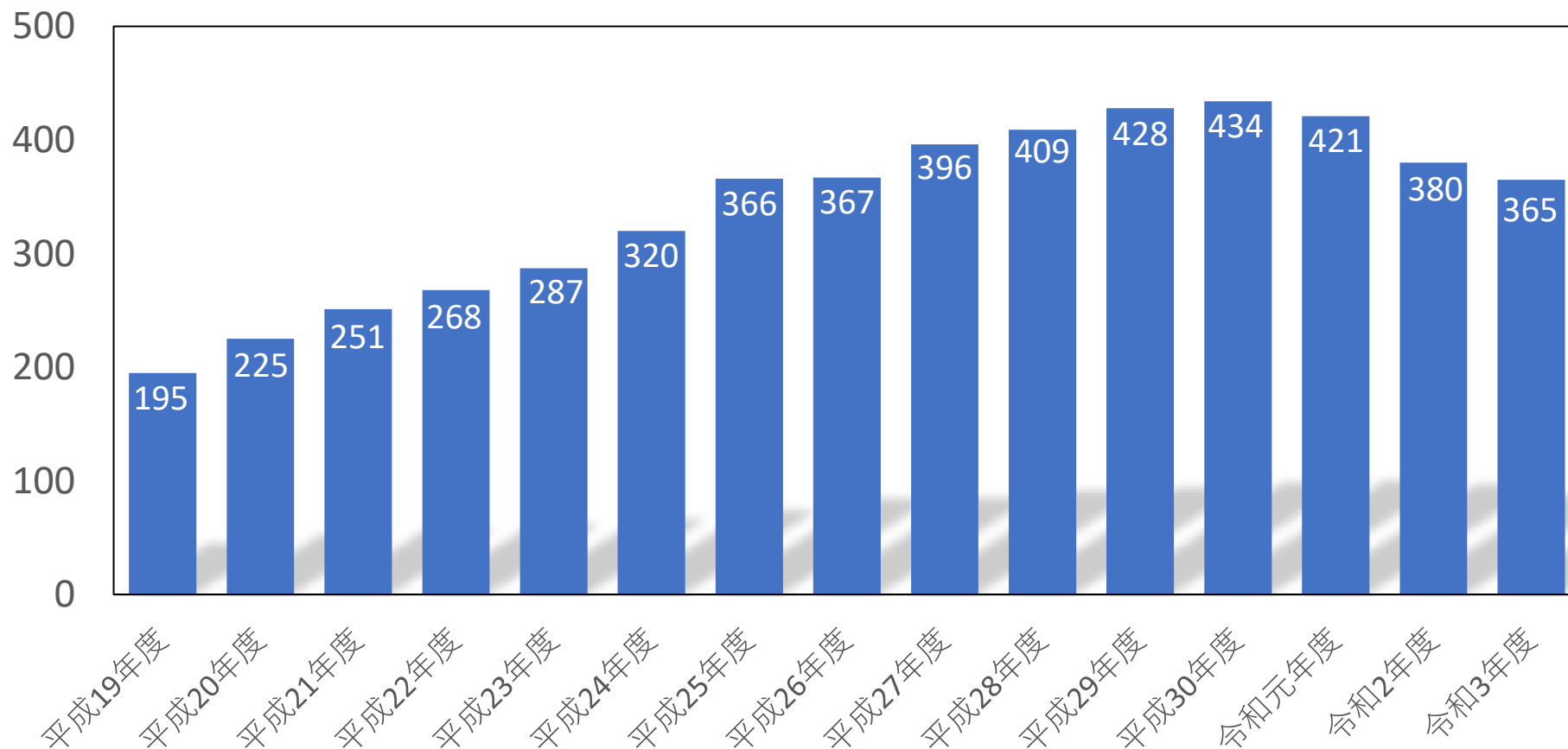
第9期運営の基本

『新しい価値の創生』

(学会員のための学会)

⇒ 原点に立ち、会員のための学会

会員数推移



会員数は微減となりました

1. 学会誌, 研究大会の充実

1. **大会の開催**:令和2年11月17日~18日、第18回大会(秋田大会)をオンラインにて開催(参加者数186名、発表件数80件)
2. **学会誌の発行**:学会誌「産学連携学」第16巻第2号(令和2年6月30日)および第17巻第1号(令和3年1月31日)を発行
3. **海外学会との交流**:新型コロナウイルス感染により、韓国の産学協力学会との学術交流は制限されたが、二国間比較研究について大会での発表や英国科学誌上での紹介を行った。
3. **シンポジウムの開催**:令和2年12月10日に「産学連携学会 令和2年度シンポジウム ~Withコロナの今、オープンイノベーションの真価を問う~」をオンラインにて開催(参加者:587名)

II. 支部・研究会活動の活性化

各支部活動

1. **北海道支部**:「令和2年度第9回道内4高専・道総研工業試験場・北海道科学大学 研究交流会」の後援と開催協力(令和3年2月25日:オンライン開催)
2. **東北・北関東支部**:北海道支部、地域活性学会東北支部の共催を得て、「第7回 東日本カンファレンス」をオンライン開催(令和3年3月16日)
3. **関西・中四国支部**:第12回研究・事例発表会をオンライン開催(令和3年2月19日)
4. **九州支部**:「IoT、AIを活用した新ビジネスの創造～産学共同でのデジタル異業種 連携戦略～」をテーマとした産学連携ネットワーク会議の開催と事業化マッチングのためのラウンドテーブルの視察(令和2年8月27日、オンライン開催)

II. 支部・研究会活動の活性化

研究会活動

1. **オープンイノベーション研究会**: シンポジウムの開催支援(令和2年12月10日)およびオープンイノベーションの先行事例、支援システムの紹介等を進めるための事業検討
2. **リサーチ・アドミニストレーション研究**: 産学連携学会第18回大会オーガナイズドセッション(令和2年11月17日:オンライン)、および第12回研究会の開催(令和3年2月25日:オンライン)
3. **地域社会実装研究会**: 研究会の開催、第3回「ロボティクス戦略の位置づけ」(令和3年1月27日:国際ファッション専門職大学名古屋キャンパス+ZOOM)、中小企業産学連携ニーズ発掘サロンの開催(令和2年6月26日、9月29日:オンライン)
4. **行動経済・社会システム研究会**: 産学連携学会第18回大会での2件の発表(令和2年11月17日・18日:オンライン)、研究会会合2回(令和3年3月4日、3月12日:オンライン)、サントリー文化財団研究助成に申請(残念ながら不採択)
5. **日韓比較研究会**: 産学連携学会第18回大会発表1件(令和2年11月17日・18日:オンライン)、第6回日韓ワークショップの開催検討(コロナ禍において、開催は次年度以降に延期)

III. その他の活動

1. **ニュースレターの発行**: 今後のニュースレターの在り方について検討
2. **メールニュースの発行**: 第1037号～第1088号発行(52回)
3. **各種イベントや展示会での出展**: 「アグリビジネス創出フェア2020」への出展
(令和2年11月11日～11月13日、オンライン開催)
4. **後援事業**: 「アグリビジネス創出フェア2021(農林水産省主催、令和2年11月11日～13日、オンライン)」、「第21回ビジネスフェア Online(西武信用金庫主催、令和2年11月6日:オンライン)」、「輸出管理 DAY FOR ACADEMIA 2020(輸出管理 DAY FOR ACADEMIA委員会主催、令和2年9月6日:オンライン)」の3件

科 目	金 額	小計・合計
(A) 経常収益		
1 受取会費		5,076,800
入会金	116,400	
年会費	4,960,400	
2 受取寄附金		1,190,000
受取寄附金	1,190,000	
3 受取助成金等		0
4 事業収益		1,689,269
研究事業収益	766,500	
啓発事業収益	877,500	
講演・研修事業収益	45,269	
5 その他の収益		34
受取利息	34	
経常収益計		7,956,103
(B) 経常費用		
1 事業費		387,416
(1) 人件費		387,416
謝金	387,416	
(2) その他経費		3,786,359
事務用品費	444	
消耗品費	214,289	
通信費	284,713	
支払手数料	1,228,133	
会議費	42,000	
外注費	165,000	
印刷費	1,851,780	
事業費計		4,173,775
2 管理費		0
(1) 人件費		0
(2) その他経費		3,563,319
事務用品費	5,496	
租税公課	480	
減価償却費	13,620	
通信費	329,940	
支払手数料	119,719	
外注費	3,094,064	
管理費計		3,563,319
経常費用計		7,737,094
当期経常増減額 (A) - (B) ……①		219,009
(C) 経常外収益		
固定資産売却益		
過年度損益修正益		
経常外収益計		0
(D) 経常外費用		
固定資産売却損		
災害損失		
過年度損益修正損		
経常外費用計		0
当期経常外増減額 (C) - (D) ……②		0
税引前当期正味財産増減額 (1)+(2) ……③		219,009
法人税、住民税及び事業税 ……④		
前期繰越正味財産額 ……⑤		3,806,031
次期繰越正味財産額 ③-④+⑤		4,025,040

2019年度と2020年度の活動計算書の比較

(単位：円)

年度	2019年度	2020年度
資料	令和2年6月総会資料 別紙資料1	東京都提出書類のうちの活動計算書
(A) 経常収益計	12,968,753	7,956,103
(B) 経常費用計のうち事業費計	10,101,523	4,173,775
(B) 経常費用計	13,552,137	7,737,094
次期繰越正味財産額	3,806,031	4,025,040

活動計算書項目比較

(単位：円)

年度	2019	2020	備考
大会、総会等			
I 経常収益			
研究事業	2,750,500	766,500	受取寄附金 2019年度：4,400,000 2020年度：1,190,000
学会誌等			
啓発事業	128,750	877,500	
講演事業	458,500	45,290	
支部、研究会、シンポジウム等			
管理部門	5,218,000	5,076,800	年会費 2019年度：5,046,000 2020年度：4,960,400 入会金 2019年度：172,000 2020年度：116,400
II 経常費用			
研究事業	7,652,871	2,161,957	
啓発事業	1,416,824	1,780,664	印刷費 2019年度：1,286,363 2020年度：1,482,692
講演事業	1,031,828	231,154	
管理部門	3,450,614	3,563,319	事務局委託費 2019年度：2,968,873 2020年度：3,094,064

事業毎の各期の経常増減額 (単位：円)

	2019	2020	
研究事業	-489,403	-205,454	↑ 規模は縮小されたが収支はプラス
啓発事業	-1,288,074	-903,164	↑ 今後、印刷費に関して要検討
講演事業	-573,328	-185,885	↑ 支出削減の効果 今後収入増加の検討
管理部門	1,767,421	1,513,512	
合計	-583,384	219,009	↑ 単年度収支 プラス

- 2020年度の活動の規模が大きく縮小されたのは（経常収益の大幅減）、大会の開催がリモートで行われ、参加者等の規模が縮小されたことによる
- 各事業の収支は一昨年度比較して改善が見られるが、学会誌の印刷費の削減、講演事業の収入増など、検討が必要である。
- 会費収入は微減であったが、引き続き今後の学会の在り方についての議論も進め、会員増強の検討を進めていただきたい。

令和2年度は単年度収支で219,009円の黒字となりました

第3号議案: 令和3年度事業計画

1. **大会の開催**: 第19回大会(名古屋大会)を6月3日~4日にコロナウィルスの影響拡大に鑑み、オンライン開催
2. **学会誌の発行**: 「産学連携学」を年2回発行する(今年度電子化を検討)
3. **産学連携学入門の改訂版の検討**
4. **秋季シンポジウムの開催**
5. **韓国の産学協力学会との連携強化**: コロナウィルスの影響を鑑み今年度はオンライン会議等による連携強化
6. **ニュースレターの発行**: 年2回を予定、今年度電子化を検討
7. **メールニュースの発行**: 随時

8. 支部・研究会活動の強化:

- ・北海道支部:支部総会の開催(令和3年7月予定)、東日本リエゾンカンファレンス開催(オンライン形式など開催方法検討)、地域経済分析システム(RESAS)活用セミナー開催
- ・東北・北関東支部:東日本リエゾンカンファレンスを北海道支部等と連携して開催(オンライン形式など開催方法検討)、セミナー等の開催を予定
- ・関西・中四国支部:令和3年12月頃に第13回研究・事例発表会開催する予定(場所:未定)に加え、幹事会(令和3年12月、令和4年3月)の開催を予定
- ・九州支部:産学連携ネットワーク会議の開催を予定
- ・オープンイノベーション研究会:シンポジウムの開催支援及び新連携ワークショップの開催を予定
- ・リサーチ・アドミニストレーション研究会:全国大会におけるオーガナイズドセッションの開催及び研究会の開催、研究会幹事会(令和4年2月予定)の開催
- ・地域社会実装研究会:中小企業ニーズ発掘サロンの開催(令和3年7月、9月)及び研究会(令和3年12月)の開催
- ・行動経済学・社会システム研究会:研究会の開催(原則オンライン)、オンラインによる地域の調査、情報交換を随時開催
- ・日韓比較研究会:日韓比較研究の推進と研究成果の発表、日韓ワークショップの開催を検討

9. 支部・研究会活動の強化:各種イベントや展示会での出展

第4号議案：令和3年度事業予算計画

令和3年度「特定非営利活動に係る事業会計」予算書

科目		金額（単位：円）	
収入			
1. 会費収入			
	会費	5,000,000	
	入会金	120,000	5,120,000
2. 事業収入			
	研究事業	2,000,000	
	啓発事業	200,000	
	講演事業	200,000	2,400,000
当期収入合計 (A)			7,520,000
支出			
事業費			
	研究事業	2,100,000	
	啓発事業	1,600,000	
	講演事業	250,000	3,950,000
管理費			
	事務局委託料	3,090,000	
	通信費	340,000	
	支払手数料	120,000	
	減価償却	20,000	3,570,000
当期支出合計 (B)			7,520,000
当期収支差額 (A) - (B)			0
前期繰越収支差額 (C)			4,025,040
次期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)			4,025,040

令和2年度の実績をベースとした収入見込み。会員増加を図る。

協賛金制度を検討。リアルとバーチャルでの支部、研究会活動を推進し、収入増を目指す。

論文誌、ニュースレターの電子化を目指す。産学連携学入門の増刷。HPのリニューアルも検討。

事務局委託費。デジタル化に伴う通信費のコスト削減とリモート会議やセミナー等の開催に必要な契約費用を計上。

産学連携学入門の改定、HPリニューアルができるよう財源確保に努める。

第5号議案:役員改選

任期満了（令和3年6月30日）に伴い、以下の通り役員を改選する

会 長：石塚悟史（高知大学）
副会長：飯田香緒里（東京医科歯科大学）、伊藤慎一（秋田大学）、緒方智成（熊本大学）、
北村寿宏（島根大学）、菅万希子（国際ファッション専門職大学）
理 事：内島典子（北見工業大学）、内山大史（弘前大学）、
江田英雄（光産業創成大学院大学）、小野浩幸（山形大学）、
川名優孝（東京海洋大学）、
宜保友理子（（株）慶應イノベーション・イニシアティブ）、
木村尚仁（北海道科学大学）、木村雅和（静岡大学）、
佐藤喜一（国立研究開発法人科学技術振興機構）、永富太一（香川大学）、
J. Radhakrishnan Nair（P&Gイノベーション合同会社）、
馬場大輔（経済産業省）、松平竹央（知財経営研究社）、
松本毅（（一社）Japan Innovation Network）、矢野卓真（名古屋工業大学）、
山本一枝（（株）ウエザーコック）、吉用武史（高知大学）
監 事：網屋毅之（大谷特許事務所）、林聖子（亜細亜大学）
事務局長：飯田香緒里（東京医科歯科大学）

第6号議案：定款の変更

事務局の変更に伴い、以下の通り定款を変更したい旨、提案する

現行定款	定款変更案
(事務所) 第2条 この法人は、主たる事務所を東京都 調布市に置く。	(事務所) 第2条 この法人は、主たる事務所を東京都 千代田区に置く。

第7号議案：令和3年度表彰者

業績賞：該当なし

論文賞：

北村寿宏(島根大学)、藤原貴典(岡山大学)、川崎一正(新潟大学、現：三条市立大学)、竹下哲史(長崎大学)、内島典子(北見工業大学)、秋丸國廣(愛媛大学)
国立大学法人 19 大学における共同研究の実施状況の解明に関する実証的研究
(産学連携学会誌 2021 年 1 月発行の第 17 巻第一号に掲載：論文)

寺内伊久郎(北海道大学)

組織的共同研究における企業と大学の関係構築プロセス
(産学連携学会誌 2021 年 1 月発行の第 17 巻第一号に掲載：論文)

功劳賞：

鞘師 守 氏

藍澤証券株式会社

特別賞：該当なし

【令和元年度役員】(令和2年6月18日時点)

会 長: 木村雅和(静岡大学)

副会長: 飯田香緒里(東京医科歯科大学)、石塚 悟史(高知大学)、

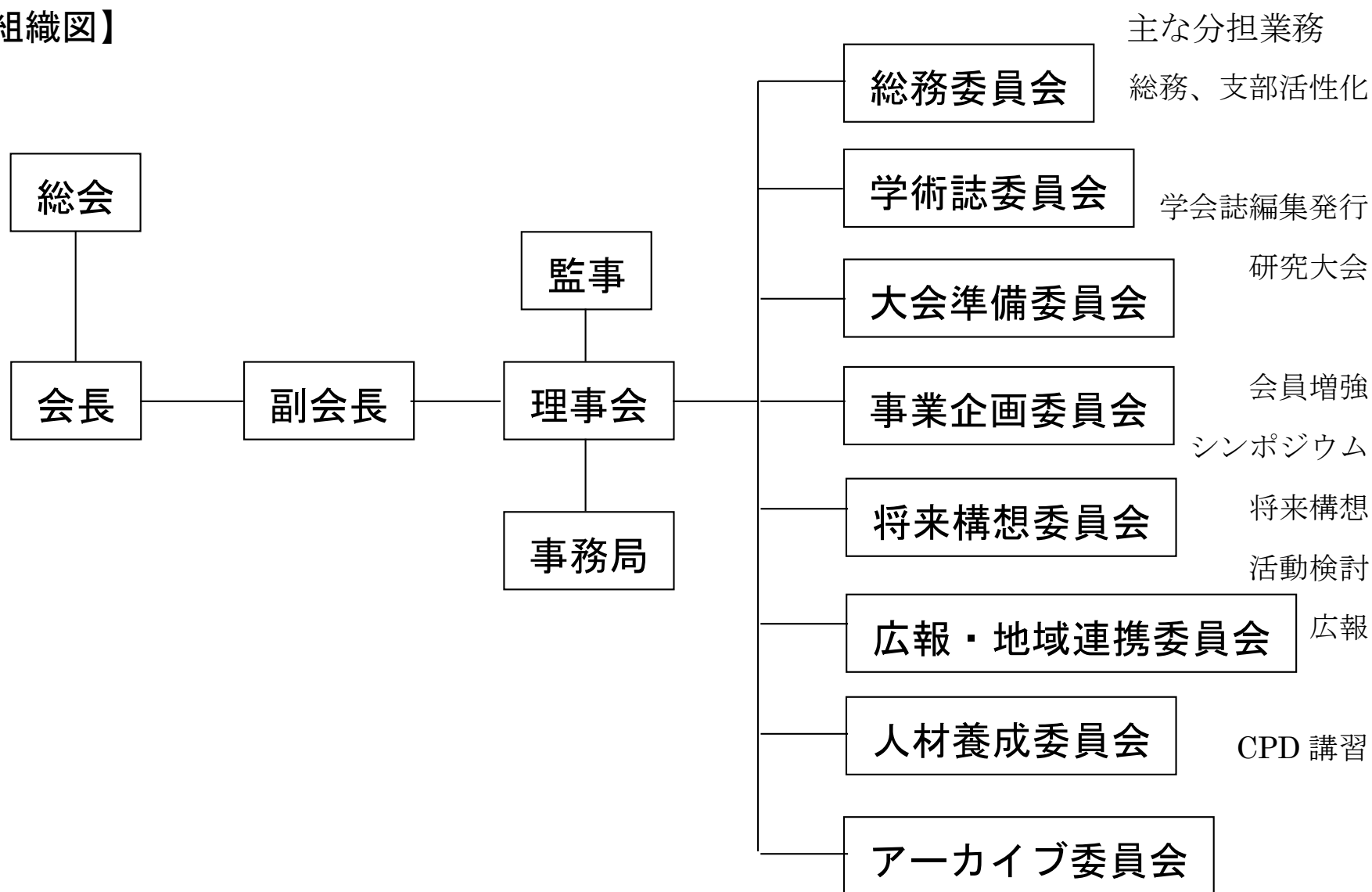
理 事: 網屋毅之(大谷特許事務所)、伊藤慎一(秋田大学)、内島典子(北見工業大学)、
内山大史(弘前大学)、江田英雄(光産業創成大学院大学)、緒方智成(熊本大学)、
尾関雄治(東レ(株))、小野浩幸(山形大学)、川名優孝(東京海洋大学)、
木村 尚仁(北海道科学大学)、北村寿宏(島根大学)、菅万希子(帝塚山大学)、
永富太一(香川大学)、馬場大輔(経済産業省)、林聖子(亜細亜大学)、
廣田勝巳(国立研究開発法人科学技術振興機構)、松平竹央(知財経営研究社)、
松本毅((一社)Japan Innovation Network)、矢野卓真(名古屋工業大学)、
山本一枝((株)ウェザーコック)、李鎔璟 (山口大学)

(会長、副会長を加え24名)

監 事: 川崎一正(新潟大学)、桑江良昇(北里大学)

事務局長: 石塚悟史(高知大学)

【組織図】



**産学連携学会
第20回大会【熊本大会】**

**2022年
6月23日(木)・24日(金)**

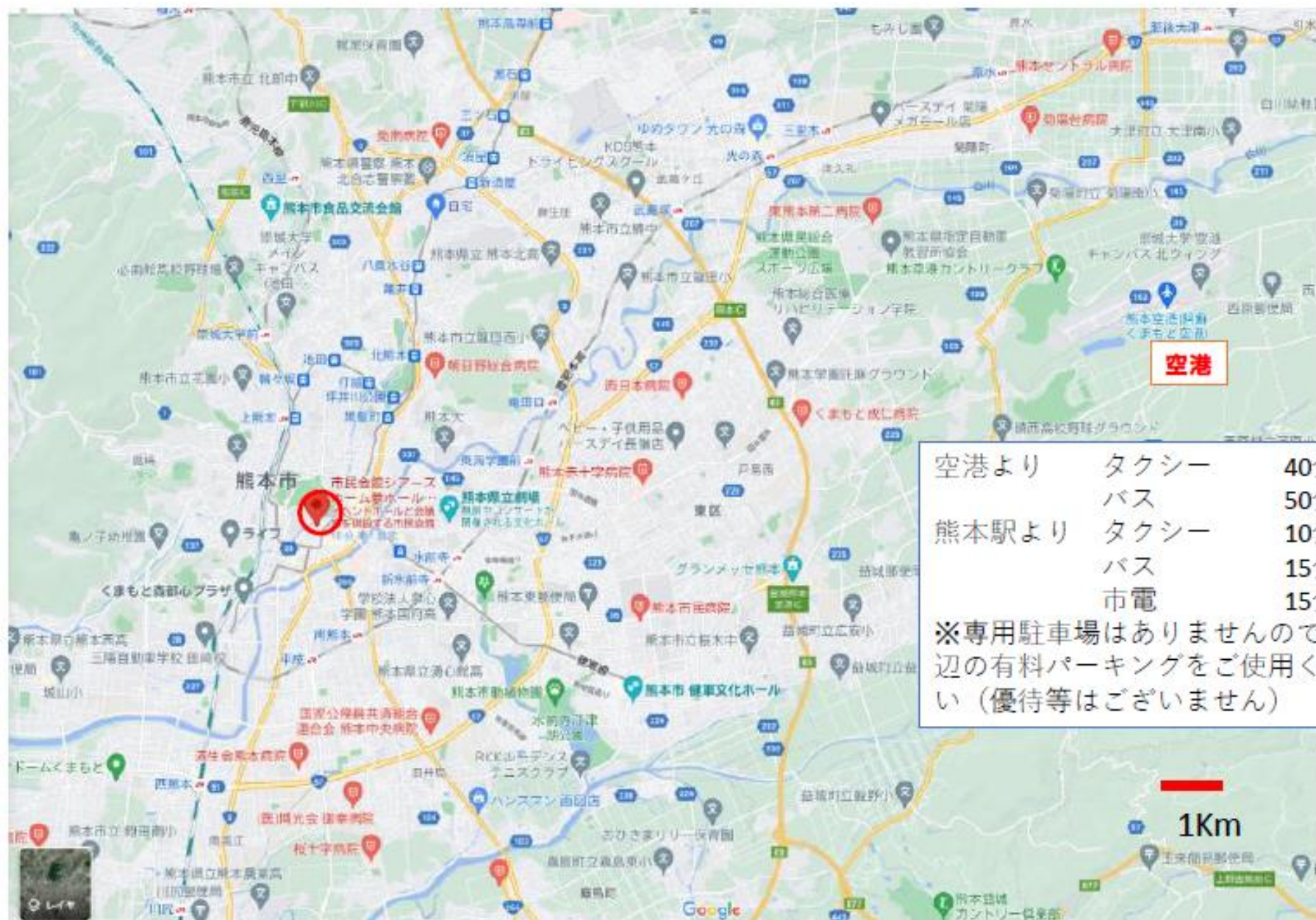
会場：市民会館シアーズホーム夢ホール

**主催：産学連携学会
共催：熊本大学**

熊本市民会館 外観



熊本市民会館 位置



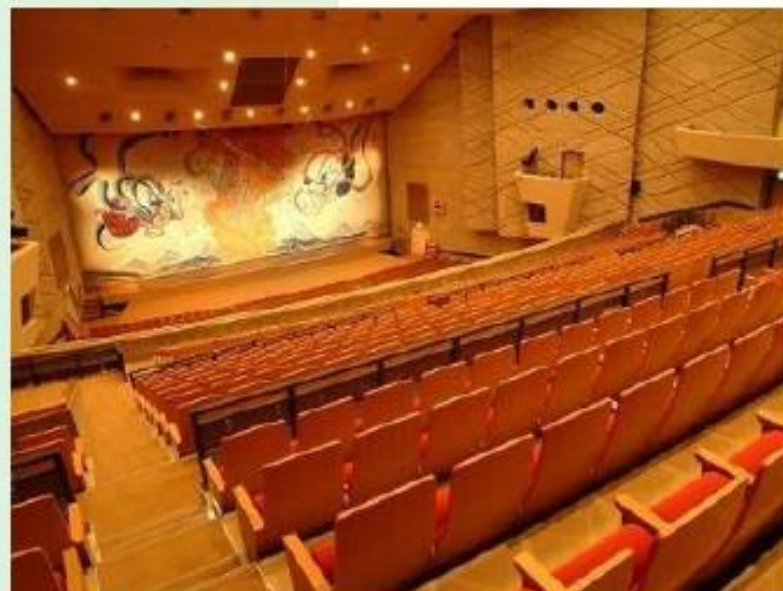
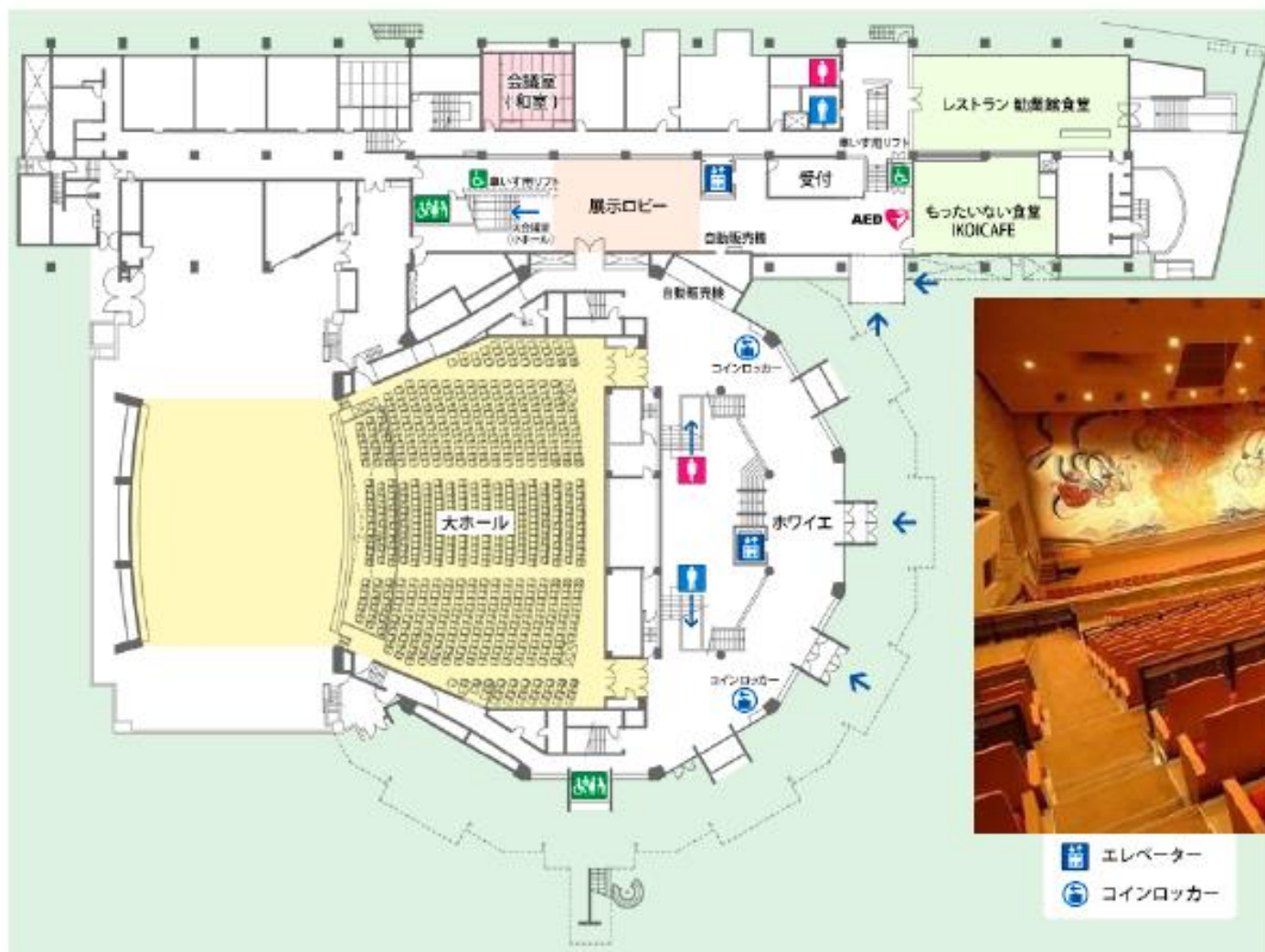
空港より	タクシー	40分
	バス	50分
熊本駅より	タクシー	10分
	バス	15分
	市電	15分

※専用駐車場はありませんので、周辺の有料パーキングをご使用ください（優待等はございません）

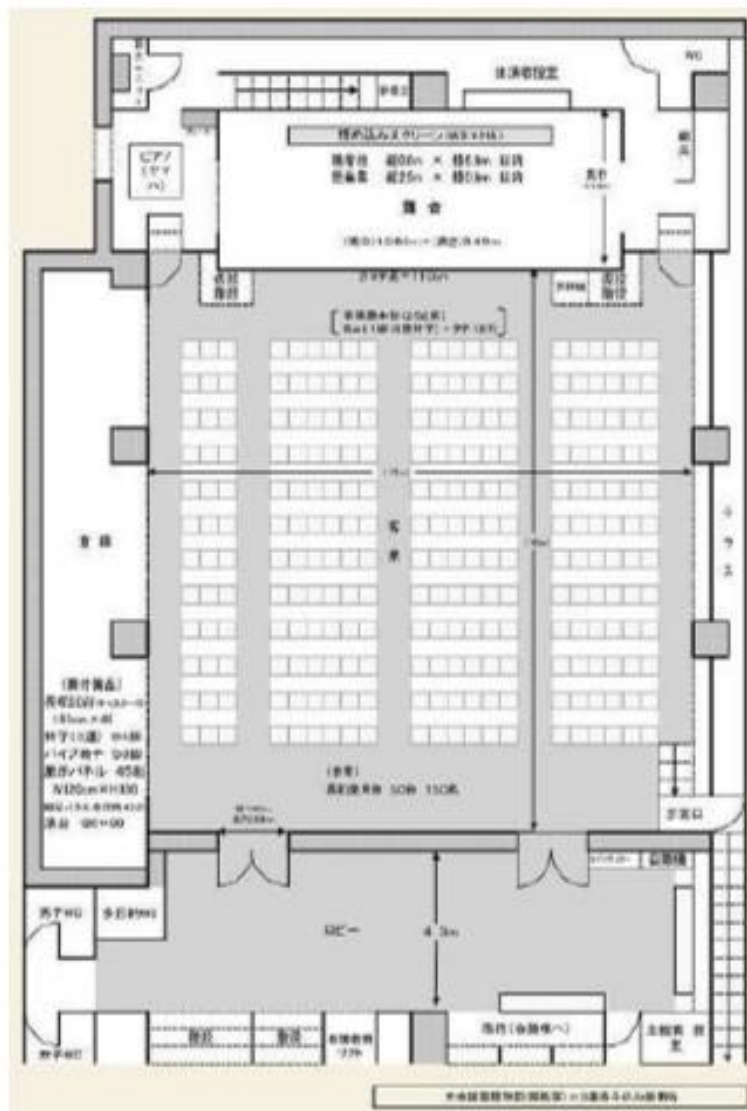
熊本市民会館 周辺施設



熊本市民会館 大ホール



熊本市市民会館 小ホール



150席（スクール形式）



その他会議室 10室

ありがとうございました